

令和 3 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03837

研究課題名(和文) グローバリゼーション下の欧州・東アジア鉄道業における統合と技術開発の比較史的研究

研究課題名(英文) A Historical Comparison of European (German) Railway System with East Asian (Japanese) one under the First Globalization - with respect to railway integration and technical development

研究代表者

ばん澤 歩 (Banzawa, Ayumu)

大阪大学・経済学研究科・教授

研究者番号：90238238

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀～20世紀ドイツ語圏(ドイツ・ライヒ)における鉄道業を対象に、技術者に対する社会史的調査を加え、政体の変化によって狭義・広義の技術的官僚であったドイツ語圏鉄道技術者の動向に大きな変化があったことを明らかにした。

このうち、とくにドイツ・ライヒスパーン首脳部に着目し、20世紀前半を中心に伝奇的調査を加え、単著としてまとめた。また経済史的調査として、19世紀以来のドイツ語圏鉄道のparticularismと国民経済との関連をバイエルン邦有鉄道の動向を中心に調査した。それらの研究も踏まえ、啓蒙的な性格を持つ単著を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀前半のドイツ社会の変動のなかに鉄道という技術体系を居続けることで、「普遍的」「一般的」な技術とその担い手が政体や社会通念の変化に応じて技術選択をおこなうという社会史的事実を浮き彫りにし、またそのことが本来的に普遍的・不変的であるべき社会秩序の解体に貢献する事態につながるという歴史的経験(ナチス・ドイツ体制下の国鉄)を明らかにすることができた。歴史学・社会経済史学・経営史学における事実発見と整理の学術的意義とともに、この点を一般をも読者対象とする著作で主張した点に、社会的意義を見出すことができる。

研究成果の概要(英文)：I carried out a socio-historical study of the railway industry in the German-speaking countries in the nineteenth and twentieth centuries and have shown that political changes led to major changes in the behaviour of German-speaking railway engineers, who were technical bureaucrats in both the narrow and broad sense. In this study I focused the German National Railway (Deutsches Reichsbahn) in the first half of the twentieth century. As an economic history study, I have also investigated the relationship between German railways' particularism and the national economy since the 19th century, with a focus on the Bavarian State Railways. Based on this research, we have published an enlightening monograph.

研究分野：経済史・経営史

キーワード：経済史 経営史 西洋史(ドイツ史) 鉄道史

1. 研究開始当初の背景

ドイツ鉄道史研究には長い蓄積が内外にあったが、それらの多くは交通史的関心を払うものであり、経済史鉄道業のマクロ経済的インパクトの把握ないし計測に研究は集中していたといえる。1990年代以降、鉄道業を人的組織として把握する研究が出現し、本研究担当者もそれに倣った研究成果をあげた。これらはドイツ語圏においては、J・コッカによる試論的な鉄道史研究やA・D・チャンドラー再評価、経済学における組織への関心によるものであり、我が国においては日本鉄道史研究のこの方向をとっていたため、それに参加したものといえる。その後、19世紀ドイツ鉄道業についてはその分邦主義的多様性に着目した実証研究を重ねた結果、20世紀ドイツ鉄道史に考察の視野を広げ、分邦主義的多様性の一応の克服といえるドイツ・ライヒスパーンの成立と発展、さらにその後の戦時期以降の崩壊について、日本などとの比較の観点から制度史的・組織史的分析を行うべき必要にいたった。

2. 研究の目的

本研究は日欧比較経済史・経営史の視角により、経済・社会のグローバリゼーションが組織・制度の革新や技術開発に及ぼす影響を与えるかを、鉄道業を対象に考察する。

19世紀におけるドイツと我が国とは、工業化の進捗や世界経済における位置づけ、さらに政体形成にいたる経路の大きな差にもかかわらず、グローバリゼーション下での「帝国」建設のなかでの鉄道業統合(「国有化」)という共通の課題をもった。両国鉄道の制度とその人的構成を実証的観察ならびに計量的経営分析によって比較し、グローバリゼーションが経済組織に与える影響に関する知見を得る。

ドイツを中心に、各国鉄道の制度とその人的構成を実証的観察ならびに計量的経営分析によって比較することで、20世紀前半までの両国経済の相似と差異、同時性と非同時性を確認する。

3. 研究の方法

ドイツにおける公文書館所蔵史料の観察・分析を中心に実証的研究をおこなった。

ドイツにおける「鉄道国有化 Nationalisation」以後、20世紀中葉にいたるまでの各地邦有鉄道・国鉄に関する史料調査・研究を以下の通りおこなった。ドイツ語圏鉄道の経営に関する史料は、ドイツ鉄道(DB)旧蔵史料をふくめて、現在、公文書としてドイツ連邦共和国の複数の連邦文書館(Bundesarchiv)ならびにバイエルン州文書館において所在を確認し、史料の収集検討をおこなった。

4. 研究成果

既存研究・公刊物による鉄道史研究の成果をより一次史料に接近した分析によって再検討、整理し、以下の著作ならびに報告にまとめた。20世紀ドイツ鉄道史に考察の視野を広げ、分邦主義的多様性の一応の克服といえるドイツ・ライヒスパーンの成立と発展、さらにその後の戦時期以降の崩壊について、日本などとの比較の観点から制度史的・組織史的概観をまとめ、問題点を整理した。

<発表した著作等とその内容>

The Development of Railway Technology in East Asia in Comparative Perspective (Chap..5 “A Comparison of Railway Nationalization between Two Empires: Germany and Japan”) Minoru Sawai (ed.) Springer Nature 2017/8 (共著 分担執筆)
・ドイツ側内部資料を用い、日独帝国間の鉄道国有化に関する歴史的条件の差異を指摘した。

『鉄道人とナチス:ドイツ国鉄総裁ユリウス・ドルプミュラーの二十世紀』

国書刊行会 2018/3 (単著)

・ドイツ・ライヒスパーン総裁ユリウス・ドルプミュラーの伝記的研究。ナチス・ドイツと鉄道業の関係を整理検討した。

「第一次大戦後ドイツ鉄道業におけるバイエルン・グループ管理局 (Gruppenverwaltung Bayern)no 成立(1919 - 1925年)」『経済学論究』 第73巻第2号 pp.1 - 29 2019年9

月

・南独バイエルンにおける第一次大戦後の鉄道国有化への対応を内部資料にもとづき跡づけた。

『鉄道のドイツ史 - 帝国の形成からナチス時代、そして東西統一へ』 中公新書
(中央公論新社) 2020・3・25 (単著)

・19-20世紀ドイツ鉄道史の通史として、ドイツ国民経済論を展開した。

『ふたつのドイツ国鉄 - 東西分断と長い戦後の物語』 NTT出版 2021・3・25 (単著)

・第二次大戦後の東西ドイツ国鉄(DB、DR)を経済史的視角から分析した。

報告

「ナチス期ドイツ国鉄の運営における総裁ユリウス・ドルプミュラー」 企業家研究
フォーラム 平成29年度年次大会 2017/7 大阪大学中之島センター 日本語
国際会議(proceedingsあり)

・ドイツ・ライヒスバーン総裁ユリウス・ドルプミュラーを企業家という側面から取り上げる。

"年次大会共通論題「マイノリティとしての企業家・再論

ヨーロッパの経験を中心に」コーディネーター及び基調報告"

企業家研究フォーラム 平成29年度年次大会 2017/7 大阪大学中之島センター
日本語 同上

・企業家=マイノリティという観点から、おもに欧州の企業家の「マイノリティ」性を国際比較する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 ばん澤歩	4. 巻 73巻2号
2. 論文標題 「第一次大戦後 ドイツ鉄道業におけるバイエルン・グループ管理局 (Gillppenverwdtung Bttcm)n0成立 (1919-1925年)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学論究	6. 最初と最後の頁 1 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 ばん澤歩
2. 発表標題 「ナチス期ドイツ国鉄の運営における総裁ユリウス・ドルプミュラー」
3. 学会等名 企業家フォーラム 平成29年度年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ばん澤歩
2. 発表標題 年次大会共通論題「マイノリティとしての企業家・再論」
3. 学会等名 企業家フォーラム 平成29年度年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 ばん澤歩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 290
3. 書名 鉄道のドイツ史 帝国の形成からナチス時代、そして東西統一へ	

1. 著者名 Minoru Sawai (ed.) Ayumu Banzawa (Chp.5)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 153
3. 書名 The Development of Railway Technology in East Asia in Comparative Perspective (Chap..5 “A Comparison of Railway Nationalization between Two Empires: Germany and Japan”)	

1. 著者名 ばん澤 歩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 358
3. 書名 鉄道人とナチス ドイツ国鉄総裁ユリウス・ドルプミュラーの二十世紀	

1. 著者名 ばん澤 歩	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 304
3. 書名 鉄道のドイツ史	

1. 著者名 ばん澤 歩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 N T T出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 ふたつのドイツ国鉄	

〔産業財産権〕

〔その他〕

上記に関連するウェブページとして以下の作成を分担した。

大阪大学経済史・経営史史料室（HP）
<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/history/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------